

群馬県立藤岡特別支援学校 学校評価一覧表② (令和3年度版)

(様式2)

羅 針 盤			担当 分掌	達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	次 年 度 の 課 題
評価対象	評価項目	具体的数値項目		①	②	総合		
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	PTAが関連する総会や事業に参加した保護者の90%以上が満足している。	渉外部	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> オンラインによるPTA総会や授業参観を行ったところ、大変好評を得ることができた。 学部日より、学級日より、連絡ノートに大きく注力することで保護者の満足感を得られている。 本校Webページへのアクセス数が増えていること、掲示板などの活用で校務の一部が整理できたことは評価できる。 PTA総会時にオンラインで保護者向けの講義を行ったところ、多くの方に視聴いただきいじめの理解が進んだ。 福祉サービスに係るケース会議は多く行われたが、対応が難しいケースについて校内のケース会議は数少ない。ケース会議自体の有効性の理解が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症に対応した学校行事や対外的な活動、授業実践について根本的な見直しを図り、「ふじとくスタイル」として定着を図っていく。 学校Webページを改善し、各学部（学級）の情報などを更に見やすく、高い頻度で更新していく。連絡帳、個別の指導計画、学級日より、通知表などの関係性を考慮し、可能な限り手間を省くことで業務改善を行う。 掲示板などを代表とした本校Webページ内の管理機能や伝達機能などを最大限活用し、校務の電子化及びスリム化を図る。 いじめの理解が進んできている反面、子ども同士のトラブルやトラブルに係る保護者への接し方の難しさへの対応が必要。 接し方などが難しいケースに関して、教諭も保護者も困っている現状がある。校内ケース会議の有効性、簡便な実施方法などを研修し、学校に定着させていきたい。
		学部・学級便りやWebページ等から「子どもの学習の様子がよく分かる」と保護者の90%以上が答えている。	教務部 各学部	A	A	A		
		学校行事や説明会等の学校公開の参加者及びWebページの閲覧者が月平均100名以上である。	教務部	B	A	A		
		いじめの認知の仕方について保護者の90%以上が理解している。	生徒指導部 各学部	A	A	A		
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	児童生徒全員について、ケース会議又はサービス等利用計画作成のための会議を実施し支援につなげる。	地域支援部	A	A	A		
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	新規の10件以上の小中学校等を訪問して助言を行うとともに、年3回以上の研修の機会を提供している。	地域支援部 研修部	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 数件の新規施設の開拓ができたが、センター的機能の周知は十分ではない。授業の公開に係る研修は年3回、新たに特別支援教育に係る公開講座を6回実施することができ、好評を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> 市などの各種会議では問題のあるケースは多くあり、本校も含めた専門機会の紹介があるが、実際にそのケースにつながることは少ない。問題があるまま本校に転入学したり、所属で苦勞する児童生徒に対し、具体的に支援をしていきたい。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	95%の保護者が「個別の指導計画」の指導内容についてお子さんの実態に合ったものであると答えている。	研修部 各学部	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 高評価が増えてきた反面、満足している保護者は若干減少した。対応の難しい児童生徒が増加していること、教育をしている内容等の保護者への周知が不足していると考えられる。 教師一人一人の授業実践力を高めるという意味では有意義な研修ができた。普段の業務の中で時間を捻出するのは困難であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画等を作成する場合、「本人・保護者の参画」が重要となる。今までは本書案を確認いただいて意見を聴取することが多かったが、基本的には計画自体を真ん中に置いて保護者らと多くのやりとりができると良いと考える。 令和4年度も授業改善をメインとした校内研修を行う予定である。適宜、関係機関等へ授業を公開したり、会議時間を捻出したりとしながら、教師一人一人の授業実践力を高めていく。
		5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	校内研修のテーマに沿った事例検討と研修内容の共有を月1回以上行う。	研修部	A	A		
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	感染症対策や学校安全について、学校の情報提供や対応に95%以上の保護者が満足している。	保健安全部	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の新型コロナウイルス感染症の罹患については、今のところ1名のみである。情報については、各種便りや一斉のメール連絡などで適宜行っている。 おおむね評価は良いが、高等部が新設したこと、新型コロナウイルス感染症が流行している状況での新たな仕組み作りの必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在は「オクレンジャー」という一斉連絡のシステムを使用して緊急の連絡などについて配信をしているが、ICTが苦手な方もいるため、後から紙媒体で同じものを配布することがある。職員も含め、活用能力の底上げを図りたい。 令和3年度は引継がスムーズにいかなかったこともあり、多くの書類の整理が係内でできなかったため、提出が遅れることもあった。提案を含め、全て期日内に終わらせるようにしていく。
		7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	95%以上の職員が、災害時の対応マニュアルをわかり易いと答えている。	保健安全部	A	B		
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	小学部から中学部、そして高等部へと一貫した指導計画を立案し、内容を100%の教員が説明できる。	移行支援部 教務部 各学部	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの学部で、農園芸を題材にした学習活動の実施、栽培する野菜などの質の向上を達成できたが、学部どうしの学習のつながりを明確にしていきたい。 保護者に対して長いスパンで児童生徒の将来に向けた展望を計画し、伝えるように努力してきているが足りていないので、教育内容の充実と説明の仕方の両面から改善したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 農園芸を教育課程の中心の一つとし、小学部から高等部への移行を意識した教育課程や、各学部どうしが交流しながら農園芸の活動を積極的に採用できるようにする。 各学部において、家庭訪問や面談の機会に間近な移行や将来の移行について本人・保護者らと具体的に話し、その結果を記録しておく。常にそれと対比させながら、授業のPDCAサイクルを実現していく。
		9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	学部間や社会への移行について早期から本人及び保護者と協議し、その意義や内容について95%の保護者が満足している。	移行支援部 各学部	A	A		

